

予報期間 12月15日から12月21日まで

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 17日は、気圧の谷が日本付近を通過する。
- 17日から19日にかけて、高気圧が日本海から日本の東に移動する。
- 19日から21日にかけて、低気圧が中国東北区からオホーツク海に進み、20日から21日にかけて気圧の谷が日本海から北日本付近に進む。

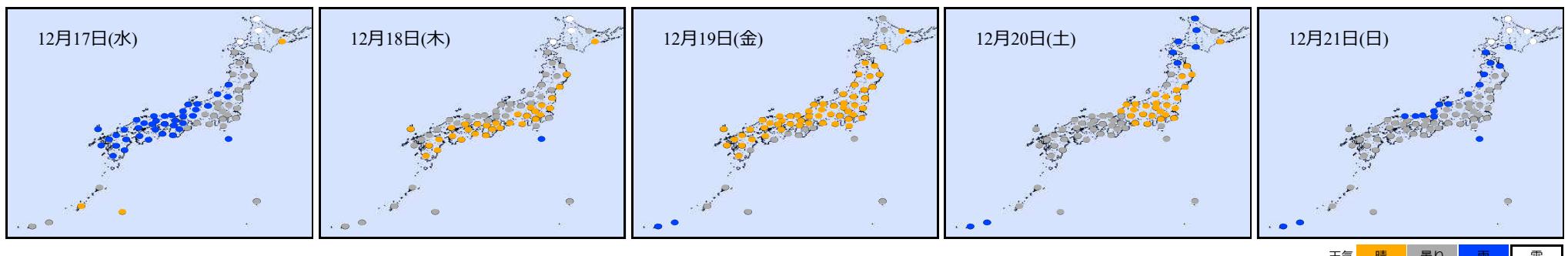
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

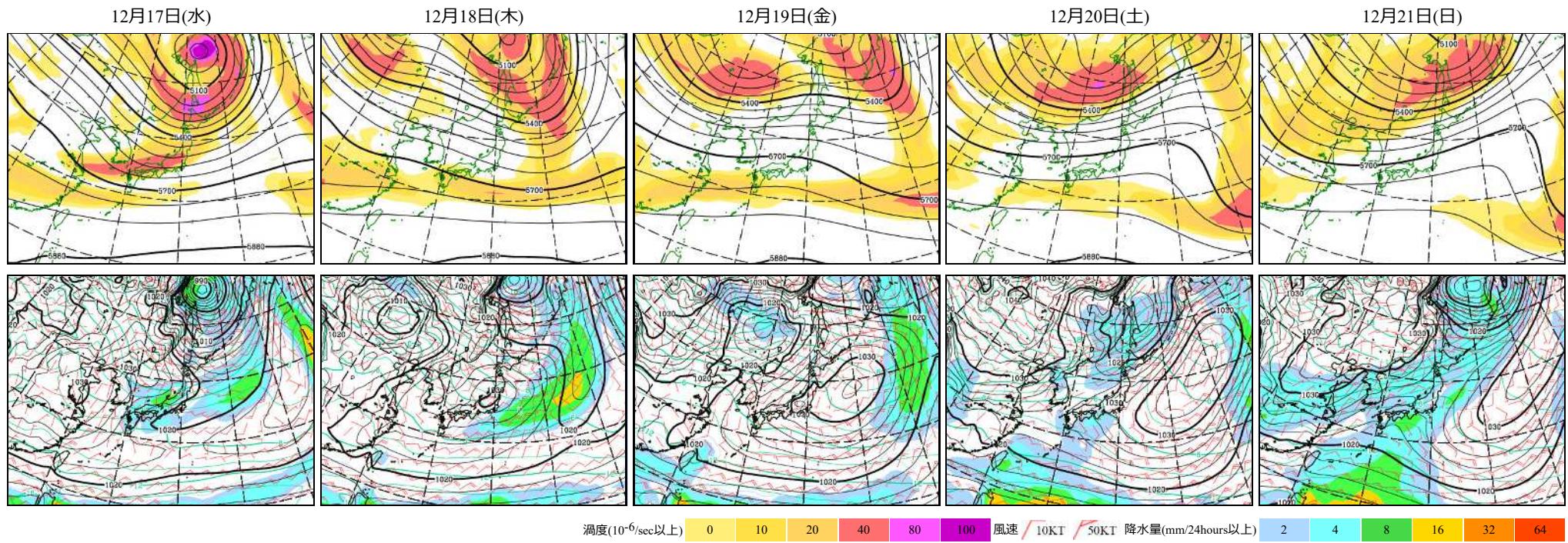
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

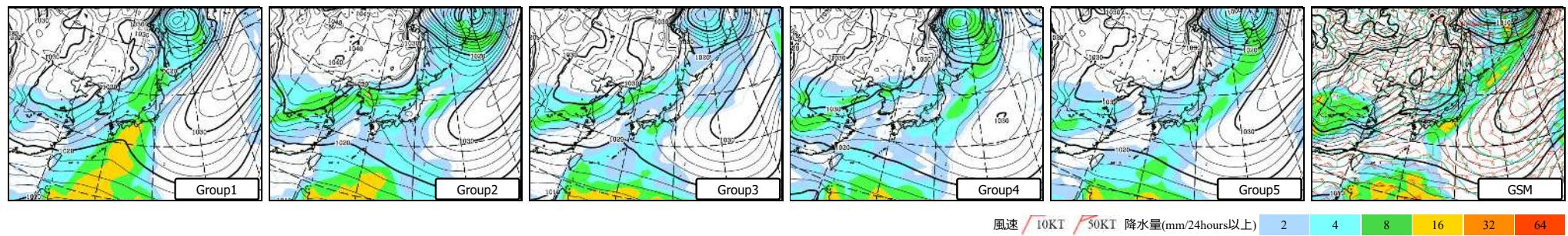


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雨または雪の降る日が多いが、19日は晴れる所が多い。
- 東日本太平洋側は、曇りや晴れる日が多い。
- 西日本太平洋側は、曇りや晴れる日が多いが、17日は雨の降る所が多い。
- 沖縄・奄美は、晴れる所もあるが雲が広がりやすく、19日から21日にかけては雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆12月21日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料（ENS）は、19日から20日にかけて中国東北区付近のトラフが明瞭になった。地上では、18日から19日にかけて、東日本付近から日本の東に移動する高気圧の東進が早くなり、20日はオホーツク海の低気圧が強くなり、日本海の気圧の谷が深くなった。
- 降水確率ガイダンスの値は、20日に北日本で大きくなつた。
- 期間を通してモデル間の差は小さい。スプレッドも比較的小さい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。